【今日の説教から】
主の復活の後の弟子たちの様子を読み進めております。
「ああ、愚かで心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」とのイエス様のお言葉を先週は心に刻みました。「目が開けて、それがイエスであることがわか」るまで、彼らはどれだけ多くの時間を要したことでしょうか。主が隣におられるのに、彼らはどうしてそこまで長く気が付かなかったのでしょうか。しかし、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか」と語ったように、イエス様は私たちの目を覚ますために今日も御言葉を語りかけ、私たちの鈍感な、真理と主の御心を悟る目を開くべく、語り続けてくださいます。イエス様は今日の箇所でもこう語られました。
「イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた、『こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらの事の証人である。」
主は手を天に挙げて弟子たちを祝福し、彼らを離れていきました。彼らはもはや恐れることなく非常な喜びをもってエルサレムに戻っていきました。恐怖をもいとわず、喜びの中、証しを続けました。

皆様おはようございます。長い冬は過ぎ、桜を楽しみ、良き季節を過ごしております。朝晩は気温が０度まで下がり、昼は扇風機が欲しくなるような、２５度を超える陽気にさえなるこの頃、気温の上下がありますからどうぞ皆様体調にお気を付けください。

イースター。主の復活を喜びました。しかし２０００年前、主の復活の時、その素晴らしい出来事はたわごとのように思われていました。弟子たちは困惑しました。現実に、主の語られた通りの素晴らしい出来事が進展しているというのに、弟子たちはそれを信じることが出来ず、エマオの途上の二人にイエス様が傍らにおられることも知らず、目が閉ざされており、その弟子たちの鈍い目が徐々に開かれる出来事を読み進めてまいりました。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。
そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。

ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。

そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。

一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか」。
そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなさった」と言っていた。

主のお現われの連鎖、お働きの連鎖、お語り掛けの連鎖がここにはあります。そして愚かで心の鈍い彼らの目がついに開かれ、ついに「主は、ほんとうによみがえって…現れなさった」と信じるようになったのです。そしてさらに今日の箇所で、主は弟子たちにお現われ下さいました。

24:35 そこでふたりの者は、途中であったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。
24:36 こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕

エマオの途上で出会ってくださったイエス様、そしてエルサレムでもペテロに出会ってくださったイエス様。散り散りばらばらに引き裂かれそうになった主の弟子たちは主のご来臨によって再び一つに集められ、そして主について証しし合っているとき、イエス様は彼らの真ん中に立たれました。そして「やすかれ」とおっしゃいました。

私たちの交わり、教会の交わりは、２０００年前も今も変わらず、主とその復活を信じる者が、くじけることなく、支え合い、助け合って互いに集って主を語り合う交わりです。私たちの人生の中で、その歩む道のりの中で、いかに主は生きて私たちと共に歩まれ、いかに私たちに御言葉をお示しくださり私たちを励まし、私たちの人生を祝福と励ましをもって導

いてくださったか、死んで働けない主ではなくて、生きて働かれるその復活の主を証しし合う。それが私たちの交わりです。そしているうちに、その彼らの真ん中に主は立たれ、「安かれ」、平安があなた方にあるようにとお現われ下さるのです。
今日、主を中心として集まり主を礼拝するこのところにも、主が真ん中にいてくださり、私たちに安かれと語りかけられるのです。ここに真の安らぎがあります。主がおられるところに真の安らぎとお守りがあります。

ヨハネ 14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。
ヨハネ(新共同訳) 14:27 わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。
ヨハネ(新改訳) 14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

世が与えることのできない主の平安が私たちと共にあります。

24:37 彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。
24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。
24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。
24:40 〔こう言って、手と足とをお見せになった。〕

何度かもう復活の主に出会ったというのに、依然として彼らはイエス様と出会って霊か幽霊かと思って心の底から震え上がったとありますが、やや滑稽なように思えますが、これが私たちの心の弱さなのでしょう。
「どうして心に疑いを起こすのか」という主の言葉がありますが、これはどうしてあなたの心の中に思いが沸き起こるのかという意味です。私たちの心に去来する心配、不安、恐れ、疑い、悩み、憤り、不信…。私たちの心の中には様々な思いが沸き上がります。しかしここには主がおられるのです。どうして主を前にして私たちはそれらの思いのゆえに心を曇らせて心沈むのでしょうか。どうして恐れるのでしょうか。

聖歌 651(新聖歌 474)に、「主がわたしの手を」"He leadth me！"という讃美歌があります。

讃美歌では２９４番です。

主が私の手を とってくださいます
どうして怖がったり逃げたりするでしょう
やさしい主の手にすべてをまかせて
旅ができるとはなんたる恵みでしょう

ある時は雨で ある時は風で
困難はするけれどなんとも思いません
やさしい主の手にすべてをまかせて
旅ができるとはなんたる恵みでしょう

いつまで歩くか どこまで行くのか
主がそのみむねをなしたもうままです
やさしい主の手にすべてをまかせて
旅ができるとはなんたる恵みでしょう

だれもたどりつく 大河(おおかわ)も平気です
主がついておれば わけなくこえましょう
やさしい主の手にすべてをまかせて
旅ができるとはなんたる恵みでしょう

"He leadth me ! "
1 He leadeth me: O blessed thought!
O words with heavenly comfort fraught!
Whate'er I do, where'er I be,
still 'tis God's hand that leadeth me.

Refrain:
He leadeth me, he leadeth me;
by his own hand he leadeth me:
his faithful follower I would be,
for by his hand he leadeth me.

2 Sometimes mid scenes of deepest gloom,
sometimes where Eden's flowers bloom,

by waters calm, o'er troubled sea,
still 'tis God's hand that leadeth me. Refrain

3 Lord, I would clasp thy hand in mine,
nor ever murmur nor repine;
content, whatever lot I see,
since 'tis my God that leadeth me. Refrain

4 And when my task on earth is done,
when, by thy grace, the victory's won,
e'en death's cold wave I will not flee,
since God through Jordan leadeth me. Refrain

優しい主の手にすべてを任せて旅ができるとは、
何という恵みでしょう。

私たちは何の思いもわだかまりもなく、心に浮かんでくる物どもを足の下に敷いて、私たちを愛してくださるイエス様に目を止めることが出来ます。

24:38 そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。

24:39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。
24:40 〔こう言って、手と足とをお見せになった。〕
24:41 彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っていると、イエスが「ここに何か食物があるか」と言われた。
24:42 彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、
24:43 イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。

主は確かに御身体をもって、弟子たちの前に復活の命を、お身体をお見せくださいました。
実体あるそのご存在を見せてくださいました。
私たちも実体ある主を信じようではありませんか。

24:44 それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話し

て聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。
24:45 そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて
24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。
24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。
24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

４５節にありますように、イエス様は聖書を悟らせるために彼らの心をお開きになられました。
鈍き心の目を開き、心を開かれる主の前に、私たちの心を、全存在をお委ねいたしましょう。心は私たち自身のものではなくて、私たちの弱りやすく、鈍い、鈍感で主の恵みを悟ることが出来ず意気消沈する心の座を、神様の前に開いていただき、そうでなければ、心が悩みと惑いの沸き上がる場所のままであれば御言葉を悟ることが出来ないと聖書は語っています。

イエス様は私たちの心を開いてくださいます。御言葉を語り、心を厚くし、燃やして私たちを励まし、現実世界を超えた力のある神様の現実を私たちに示してくださいます。私たちはどうしてその現実に目を開かずして恐れの中に居続けることが出来るのでしょうか。

「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。
24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。
24:48 あなたがたは、これらの事の証人である。

そうして、罪の赦し、永遠の命をもって私たちを神の子として下さる神様の恵みを、現実を超えた無限の祝福と恵みを、私たちも惜しみなく伝える者でありたいのです。

24:49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。
24:50 それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。
24:51 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕
24:52 彼らは〔イエスを拝し、〕非常な喜びをもってエルサレムに帰り、

24:53 絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。

その現実を超えた力は、私たちの心のうちに活ける川となって喜びと知恵を湧きあがらせる聖霊が彼らに約束されました。そしてそれはペンテコステの日に実現されました。
彼らの恐れは喜びに変えられ、非常な喜びをもって迫害の中心地エルサレムに帰り、迫害の中心地である宮に居続けて彼らはイエス様の証人となり続けました。驚くべき神様のお力づけです。
私たちも去来する心の思いから切り離され、様々の思いが沸き上がる心から解き放たれ、心開かれ御言葉から御言葉へと導かれ、私たちの心の中心の場所に主に立っていただき、安かれと慰めを頂き、「あなたがたは、これらの事の証人である」との主のご命に応える者でありたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。恐れ、疑い、不安を取り除き、喜びに満たし導いてくださいます主のご復活の恵みを本当にありがとうございます。あなたは信じがたい喜びを私たちにお導きくださり、大喜びで現実の世界の只中を生かしてくださいますから、ありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン